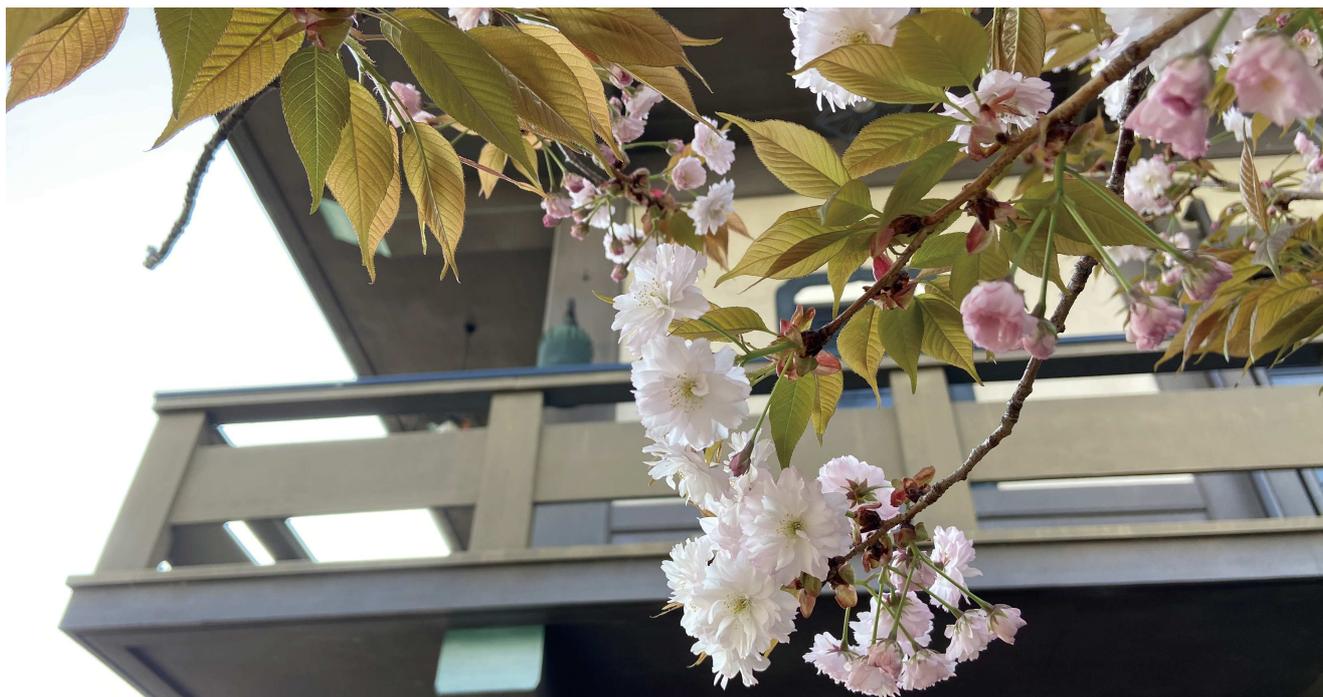


真宗佛光寺派
大阪教区・
別院だより

大悲

第45号

令和4年(2022年)
4月1日 発行



大阪の春、別院の春（大阪市住吉区）

「戦争はイヤやな」。お参り先のご門徒が口々に言われます。そして自分が子ども頃の戦争体験を話してくださいます。それを聞くと、
「人間はなぜ同じことを繰り返すのだろう」という思いが頭をよぎるのです。

そんなある日、ご法話で聞いた言葉をふと思い出しました。「人間みんな裁判官。他人は有罪、自分は無罪」。争いとは、正義と正義のぶつかり合いだと思います。「自分の思い」を通すために、その思いに「正義」というヨロイをかぶせて、相手にせまります。それが互いにつかり合って争いになるのです。結局、「自分のかさず正義」を通そうとするところに争いが起こるのでしょう。

聖徳太子が亡くなられて一四〇〇年。『十七条憲法』の冒頭には「和を以て貴しとなす」とあります。その太子の一族も、権力争いの中、滅亡の道をたどりました。

いま改めて、太子の言葉に耳を傾けていくことの大切さ、難しさを思い知らされます。

（門川 崇志）

と う ひ が ん 到 彼 岸



せけんこけ
世間虚仮

おさだ ゆずる
正念寺 長田 譲

師の言葉「本当のものがわからないと
本当でないものを 本当にする」も
選ばれました。

本当でないもの

現代は、インターネットで様々な情
報を簡単に入手できます。しかし、虚
偽の情報でつくられたフェイクニュー
スが拡散されても、正しい情報と信じ
込むことになりかねません。

日々の暮らしの出来事を自分自身が
判断しているつもりでも、「著名人がテ
レビで話していたから確か」「世間の人
が言っているから間違いはない」と世間
の有力な意見に左右されやすいもので
す。今までの自分の知識や経験から、
自分の判断は正しい「本当のもの」と
思い込むことがあります。

OKA」に「世」の字をあてたものと
され、「崩れるもの」「破壊されるもの」
という意味なのです。

出世間の教え

親鸞聖人が慕われた聖徳太子の「世
間は虚仮なり。唯仏のみ是れ真なり」
というお言葉があります。

仏教は、移り変わり、崩れ去るもの
にしがみつ়くことから離れよと説く、
出世間のおしえです。

「本当のもの」が本当とわかるのは、
ありのままにものごとをみることがで
きる「仏さまの智慧」のみです。だか
らこそ、自分の思いに執着して、「本当
のもの」を見失っている私のすがたが、
仏法聴聞の中であきらかにされるので
す。

(令和四年四月)

「輝け！お寺の掲示板大賞2021」
(仏教伝道協会主催)の入賞作品が昨年
末に発表されました。この賞は、SNS
(ソーシャル・ネットワーキング・サー
ビス)の普及に合わせ、ツイッターや
インスタグラム上でお寺の掲示板の写
真を投稿してもらい、すぐれた作品を
選ぶという企画で四年目となりました。
大賞は「仏の顔は何度でも」でした。
入賞作の中に真宗大谷派の安田理深

「世間」というと盤石で確立している
ものというイメージがありますが、本
来は仏教用語で、サンスクリットの「L



如にょ是ぜ我が聞もん

感染症を生きる

福井教区 西雲寺 護城ごじょう一哉かずや師



さんたちもまたそのような生き方を先人の背中から教わってきたのでした。

念仏の教えに出遇う

昔から困難な生活の中を強く穏やかに生きてこられた先人の姿から学ぶ、おおらかな念仏の教えに出遇うことで初めて自らの命の輝きに気付く。

それは大きな光であり、確固たる希望です。だから私は、先輩の声を聞いていくしかないのですと護城師はお話しくださいました。

聴聞して

感染症の不安が高まる現代のどこに希望があるのか、今こそ、自らの生き方を仏教にたずねる時であると聴かせていただきました。

佛光寺チャンネルより護城師の「感染症を生きる」を聴聞させていただきました。

先人の生き方に遇う

ナ禍に限らず「自らが死ぬのではないか」ということではないでしょうか。

コロナ禍において今まで心の片隅に追いやり、なるべく考えないようにしてきた生死の問題が自分のこととして迫ってきました。コロナ禍には

親鸞聖人は九歳で比叡山に修行に上られる時に「明日ありと 思う心のあだ桜 夜半

感染するかわからない不安、感染したら白い目で見られるのではないかという不安、失業するのではないかという不安など様々な不安があります。

詠まれました。夜中に嵐が吹けば綺麗な桜の花もいつ散るかもしれない儂い命を生き

しかし根本にあるのはコ

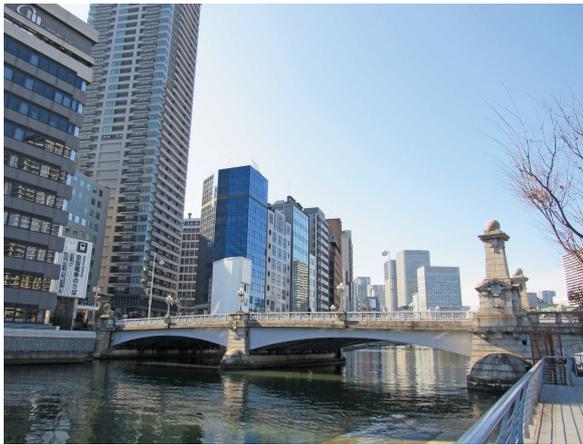
同じです。そんな我々の本当

ご門徒のおじいさんおばあ

(葦名彰 記)

大阪探検

なにわぼし 難波橋



難波橋



阿吽のライオン像



難波橋の顕彰碑

【アクセス】

- ・大阪メトロ堺筋線「北浜駅」徒歩1分、御堂筋線「淀屋橋」徒歩8分
- ・京阪本線「北浜駅」徒歩1分、中之島線「なにわ橋駅」徒歩1分

難波橋は天神橋、天満橋とともに「浪花三大橋」とよばれ、大阪を代表する大橋です。その歴史は古く奈良時代の僧、行基が架けたと伝承されます。

ダジャレでライオン像？

江戸時代、反り橋だった難波橋からの展望はとくにすばらしく、遠くの山々を眺めることができ、夏には夕涼みや花火見物など憩いの場所として賑わいました。

大正4年、橋詰の親柱に阿吽のライオン像が設置されたのは、江戸時代に橋の上から周辺の16もの橋を眺めることができたことに由来して「しじじゅうろく（4×4＝16）」をかけたなど諸説

ありますが、今は「ライオン橋」の愛称で親しまれています。

浪花八百八橋

江戸時代、大阪は浪花八百八橋と呼ばれていましたが、当時は200橋ほどしかありませんでした。その中で難波橋は幕府によって架けられた数少ない「公儀橋」で、大半の橋は商人や町人たちの負担によって架けられた「町橋」でした。そうした民間橋の多さを誇りとして「浪花八百八橋」と謳われてきたのでしよう。

現在は周辺にビルが建ち並び、マスク姿の人々が黙々と歩く時代になりました。年月を経て人が行き交う様子はライオン像の目にはどのような映っているのでしょうか。

（玉出宗順）

お店を訪ねて

かわかつほういてん 山勝法衣店（京都市下京区）

川勝法衣店は1875（明治8）年に、京都・西六条花屋町の現在地で法衣商として創業しました。店主は代々川勝儀兵衛を名乗り、現社長で五代目です。

1908（明治41）年には、カタログ販売を開始し、今も毎年、国内外に発行しています。そして法衣は伝統工芸品の「西陣織」で、卓越した技術と意匠で本山や各寺院が利用しています。

技術と意匠

来年、本山佛光寺で厳修する慶讃法会を記念した五条袈裟の図案を川勝法衣店が作成されました。

佛光寺派を担当してくださっている古市秀樹さんにお聞きしたところ「親鸞聖人の教えやご生涯、また、仏さまの教えなど、多くの方々に、ご教示をいただきながら進めさせてい



店舗前にて、社長（右）と古市さん

織り込むなど、今までにない新しい意匠と技術で調製することができました」とおっしゃっていました。また、日頃から大切にされていることは？との質問に「法衣を通して、仏法を伝えるお手伝いをさせていた

くださいました。

実は佛光寺派のご門徒でもある古市さん。「佛光寺派は家族教団と言われます。私もその一人として、これからお手伝いをさせていただき、また多くの方々と家族として、ご縁をつなげられたらと思います」と。

これからの思い

今後については「社会の変化の中で、伝統に生かされた、法衣の調製に務め、『大悲に生きる人』とあう願いに生きる人となる」の理念のもと、法衣の商いをつなげていきたいと思っています」とお話しくださいました。

（隅谷俊紀）

株式会社川勝法衣店

〒600-8334

京都市下京区花屋町通油小路東入

電話 075-371-0367

Fax 075-371-5088

大悲トピックス

■大阪別院修正会しゅうしんかい

お正月といえは神社などへ初詣に行ったりするのが日本人の習慣のようになっていますが、仏教寺院では仏事「修正会」が行われます。

これは中国の年始の儀式が日本に伝わったもので、前の年の悪を正して新年の天下泰平などを祈る法会として奈良時代初めから仏教寺院で行われて広がりしました。

しかし、各宗派によりその行われる意味や内容は違います。真宗の修正会の意味や真宗門徒としての元旦の迎え方は、ご家族でお内仏に新年のお勤めをし、そして改めて日々聞



修正会にご参詣の皆さん

法に励むことを皆で確かめ合う仏事です。

毎年大阪別院では、一月二日正午より修正会をお勤めしています。今年も寒い中ご家族でお参りくださいました。

来年の別院修正会にも、お誘い合せてお参りください。

(大阪別院輪番 葦名彰)

■『大悲』広告・購読のお願い

大阪教区・別院日より『大悲』(年4回発行)は、「広告」および「定期購読」を収入源として発行させていただいております。

広告は、一区画(55mm×40mm)、掲載一回につき5千円(年間で2万円)です。企業・団体・寺院等の広告を誌面に掲載させていただきます(6・7頁下段参照)。

また、『大悲』の定期購読は、1部につき30円です(送料込・10部単位でお願いいたします)。

■お悔やみ

謹んで哀悼の意を表します。

第三組・最法寺

君原憲了様 (1月28日寂)

御本山 **近** 用達

株式会社 **川勝法衣店**

フリーダイヤル 0120-075-055
(〒600-8344) 京都市下京区花屋町通油小路東入

電話 (075) 371-0367(代)
FAX (075) 371-5088

本山佛光寺 御用達

石の総合メーカー

株式会社 **石留石材**

ホームページ
<http://www.ishitome.co.jp>

本社:京都市中京区堀川御池角
TEL 075-841-1149 FAX 075-812-5826

- 大正三年創業の信頼と実績 -

石留石材株式会社

各種石塔・石仏・記念碑
寺社建築石材まで

○ご相談は下記フリーダイヤルへ 携帯・PHS OK

0120-53-5578

[本社・工場・展示場] 藤井寺市津堂2丁目9番29号

浜屋は関西最大級のお仏壇・お仏具・墓石・御寺院お仏具の専門店です。

やすらぎの世界を創る **浜屋**

通話料無料/浜屋姫路本社フリーダイヤル

お問い合わせお申し込みは **0120-1616-94**

●受付時間/午前10時～午後6時30分

人工芝施工・内外装工事・サイン・ディスプレイ・テント

Kyowa

協和産商株式会社

<https://www.kyowa-ss.co.jp/>

本社:大阪市東住吉区今川8-1-14
TEL:06-6702-5722 FAX:06-6702-5732

お墓なんでも相談センター

永遠の想いを像に還るお手伝い

ヨシザワ

株式会社吉澤石材工業所

フリーダイヤル **0120-49-1482**

だいひ 絵日記

- 1月 2日 (日) 大阪別院修正会
1月 19日 (水) 大悲の会編集会議 (総会・第45号読み合わせ)
2月 7日 (月) 大悲の会編集会議 (第45号読み合わせ)
2月 24日 (木) 大悲の会編集会議 (第45号読み合わせ)
3月 18日 (金) 大阪別院彼岸会 (布教：中井 翔隆 師)
3月 21日 (月) 大阪別院彼岸会 (布教：長田 譲 師)
3月 24日 (木) 大阪別院彼岸会 (布教：寿栄松 正顕 師)
3月 25日 (金) 大悲の会編集会議 (第45号発送作業・第46号内容検討)

■「大阪探検」のお・ま・け

大阪探検の文中にある「浪花八百八橋」を目にして「♪吹けば飛ぶよな〜 将棋の駒に〜」で始まる村田英雄さんが歌う『王将』の「うまれ浪花の八百八橋」という歌詞を思い出された方もいらっしゃるかもしれません。

今から25年ほど前、私が東京で法務員として勤めていた頃のことです。ある門徒さんに「『涼しさに 四ツ橋を四つ 渡りけり』という歌を知っているかね」と尋ねられました。

私は「知りません」と即答すると「浪花八百八橋と謳われた大阪出身の者がこの歌もしらんとは！ 戎橋をひっかけ橋なんぞと呼んでるからダメなんだ！」とえらくお叱りを受けた覚えがあります。その門徒さんは当時の町人や商人が自腹を切っても架けた橋への思い、歴史を知ることでも大事だと、そうすれば戎橋をひっかけ橋とは呼ばないとも教えてくださいました。

ふとそんな出来事を思い出し、浪花八百八橋を少しでも紹介できればと思ひ、難波橋を紹介させていただきました。

(玉出宗順)

■誌面広告募集

企業・団体・寺院の広告を誌面に掲載させていただきます。

1区画(55mm×40mm)、掲載1回につき5,000円です。

表具 八木米寿堂

御本尊掛軸修理 絵画、書の表装

〒600-8073

京都市下京区柳馬場通仏光寺上る

tel 075-351-2853 fax 075-352-3258

和奏の会 翠笛会

寺院のイベントに邦楽(尺八・箏)出張演奏いたします。

曲目はリクエストできます。

事務局：阪南市新町 宝林寺
電話 072-472-1414

<http://homepage2.nifty.com/suiteki/>

協賛

佛青懇和会

大阪教区の青年会
(会長：門川崇志)

協賛

さつき会

大阪教区の坊守会
(会長：木村愛子)

協賛

法友会

大阪教区の住職会
(会長：佐々木太一)



どなた様でもお参りいただけます
法要・法話会のご案内



本山佛光寺茶所布教

毎日午前7時半

※大阪教区布教使の担当は下記の通りです

4月11日(月)～15日(金)

法話：門川 崇志 師

4月16日(土)～20日(水)

法話：葦名 彰 師

5月16日(月)～20日(金)

法話：隅谷 俊紀 師

5月26日(木)～31日(火)

法話：玉出 宗順 師

6月6日(月)～10日(金)

法話：寿栄松 正顕 師

6月26日(日)～30日(木)

法話：中井 翔隆 師



編集秘話

65歳になりました。歳をとると、だんだん欠点を指摘してくれる人がいなくなります。私にとって、編集会議のメンバーからの「ここは、わかりません」という指摘は、自分の考えの狭さを教えてくれる大事な言葉です。そこからまた自分の考えを問い直し、文章を練り直すということが始まるからです。(佐々木)

編集後記

大阪教区・別院だより『大悲』が初めて発行されたのが2012年4月1日。それから丸10年が経ちました。そこで、これを機に新たな編集者を募集いたします。大悲の会の一員として、ともに研鑽していく仲間となっていただければ幸いです。自薦・他薦は問いませんので、編集者までご連絡ください。(編集長・隅谷)

大阪教区・別院だより『大悲』 第45号(春号)
令和4年(2022年)4月1日発行 (発行部数2200部)

発行：大悲の会

事務所：佛光寺大阪別院内

〒558-0011 大阪市住吉区苅田6-11-24 電話06-6691-1362

郵便振替口座：口座番号「00990-4-305218」加入者名「大悲の会」

ホームページ(HP) <http://daihi.org/> (ご意見・ご感想はHP内の「お問い合わせフォーム」より)

大悲の会

長田 譲(会長)

隅谷 俊紀(副会長)

寿栄松 正顕(会計)

玉出 宗順(会計)

門川 崇志(監事)

佐々木 太一

葦名 彰